

玩具は如何に 選擇すべきか

高市次郎

玩具を用ふるに三通りある其の一つは大人が玩具を用ひて兒童を遊ばせる時と、大人と兒童とが互に玩具によりて遊ぶ場合と兒童のみが玩具を用ふる場合とである

第一、兒童が大人の用ふる玩具によりて遊ぶ時代は多くは乳兒期で直觀作用による音色等を用ひ唯だ無意告の働動を興ふるのみである故に此の場合には形は可成單純にして色は原色を主とし音は餘り強からざるものを撰ぶがよい、がらくなどにも随分手のこんだ絹物などを用ひたる大人には立派なものがあるが是等は何等の意味もないのである又此の場合には危険なものでも構はない從て硝子片で造つた風鈴などでもよい是は音が靜で又趣きのあるものである風車な

どは吹いて見せるものであるから壞れ易いものでも構はない

第二、大人と兒童とが玩具によりて共に遊ぶ玩具

はせんまい付の活動的のものが最もよい、一般に此の頃はブリキ製のものは危険であるせんまゝいものは直に壞れると云つて全く玩具界よりは是等活動的の觀察玩具を取り除かんとするものがあるが是は大なる誤りである成る程玩具は實用的の機械の様に頑丈に出來ては居ない併しながら無理をせずに充分構造を承知して用ふればしかく壞れるものではない、之を大事に取り扱つて漸次兒童と共に慣れしめば兒童も又法外の無理なことをするものではない、此の邊が大に訓練上必要な處で所謂玩具を用ひて兒童を教育すると云ふ處である幼稚園などは丁度此の場合に適した機會も多々ある殊に四五才位の時期は最も活動的のものを好むものであるから此の時代には夫れ相當のものを撰んで使用する時に注

意せねばならぬむやみに玩具の危険を恐れて其の範圍を非常に狭めるものがあるが之は注意せねばならぬ、西洋人の子供は小さいのに打物を持つておるのを見るのが屢々ある本年も輕井澤の積で小さい子が随分危険らしい熊手や金屬の鋤の類を持つて平氣で遊んでゐた、人を溺れしむる水に入らなければ水練は出來ぬ

第三 玩具を持つて兒童が遊ぶには大人の監督のある場合とない場合とがある、幼稚園は常に後の場合で此の時の玩具が兒童に對し最も有效な場合で、實驗觀察玩具若しく玩弄用、製作用、勤勞用の玩具を選ばねばならぬ此の時は年齢も自然に長じた時であるが玩具は却而危険のないものを選ぶがよい而して自由に用ひしめて少し位壞しても構はず充分に使用せしめねばならぬ監督もなく獨で玩具を扱ふ時には最も丈夫で危険のない變化の多いものを選ばなければならぬ是が實際に心身を鍛練する有力なものである

以上は用ふる場合によりての撰擇法を略述したのであるが余の考ふる處によれば時には兒童の性格と反對の玩具を與ふ必要もあると思ふ假へば數學的の頭のない子は大概推理的の思考玩具を嫌ふけれども如斯兒童には却而推理的のものが必要である又家庭によると面倒臭いことをする玩具は兒童をいぢけさす粗放活達の玩具ならざるべからずとて或は鐵砲劍の如きものゝみを與へる併し膽大心には古來よりの戒で大活動の後には又沈靜なる玩具を要すると思ふ故に兒童を玩具店に導きて其の慾するものゝみを買ひ與ふも亦決して上乘ではない、併し全く兒童の意見を度外視して大人の尺度せる玩具のみを兒童に與ふも又弊害の多き場合がある此の邊は所謂玩具撰擇の最も困難なる處で大に注意せねばならぬ乳母書生などに一任してむやみに玩具を購ふは寒心の至りである